

ぐんま幼児教育センターだより

第37号

群馬県総合教育センター 幼児教育センター 令和2年3月発行

今年度の研修を振り返って

令和元年度の研修が終了しました。研修講座（新規採用教員研修、3年目経験者研修、5年経験者研修、中堅教諭研修、新任園長研修、新任教頭・主任研修、幼児教育研修講座）や、夕やけ保育研修会に多くの方々に参加していただき、ありがとうございました。令和2年度も皆様のお役に立てる研修を企画していきたいと思えます。

令和元年度 夕やけ保育研修会 「特別講演会」 実施報告

研修の概要

- ◆日時：12月26日（木）
- ◆会場：群馬県総合教育センター 講堂
- ◆演題：「遊びを中心とした保育の充実を目指す」
- ◆講師：聖心女子大学 教授 河邊 貴子 氏

受講者の声 受講者数:165名

- 遊びの質を大切にしなければいけないと感じた。自園の環境の見直しも行いたい。
- 保育者が子供に対して“してあげる”ことも、子供の“する”につながることを学んだ。
- ICEモデルの考え方が大変分かりやすかった。
- 遊びながら概念を学んでいる子供たちに必要な環境を考えていきたい。
- 実際の保育の現場での出来事を写真付きで説明してもらったので、とても分かりやすかった。子供をよく観察して遊びを広げていく大切さに改めて気付いた。
- 記録を通して経験のつながりを見ることで必要な足場を作ることができるのだから、深い学びを評価するためには、記録が大切だと改めて感じた。

- 今自分が行っている保育を、もっと考えなくてはならないと感じた。
- 勤務園では真逆の保育を行っているので、今日学んだことを少しずつ取り入れていこうと思う。
- 自分の保育は、ただ遊ばせているだけのことが多いと感じた。一人一人の子供と向き合い、遊びが充実するような土台、足場を作れるようになりたい。
- 子供たちにどれだけ遊びが大切なのかよく分かった。
- 大変参考になった。園の先生方と教材研究をもう一度やり直し、3学期に向けてよりよい保育を目指したい。研修に参加してよかった。



お知らせ

令和2年度 夕やけ保育研修会の予定

予定日	開催地	講義題	講師等
7月22日（水）	東吾妻町	幼児期の教育と小学校教育の接続	群馬パース大学福祉専門学校 専任講師 田子 文子 氏
8月20日（木）	みなかみ町		
11月25日（水）	榛東村		
8月25日（火）	玉村町	乳幼児の教育・保育について	元高崎健康福祉大学 教授 高梨 珪子 氏
12月3日（木）	群馬県 総合教育センター	先生方のためのヨガ講座	高崎健康福祉大学 准教授 山西 加織 氏
7月16日（木）	群馬県 総合教育センター	子育て支援の現状と課題 ～事例発表・講義・情報交換～	NPO法人時をつむぐ会内「ぴよぴよの会」 代表 横山 由美子 氏 事例発表：渋川市子育て支援総合センター
9月3日（木）	高崎市	乳幼児の発達理解と遊び	群馬大学大学院 准教授 大島 みずき 氏
9月8日（火）	館林市	気になる幼児の理解と支援	NPO法人リンケージ 理事長 臨床心理士 石川 京子 氏
11月30日（月）	太田市	気になる幼児の理解と支援	a n o m i r a 代表 作業療法士 北爪 浩美 氏
12月24日（木）	群馬県 総合教育センター	幼児期にふさわしい生活を考える ～「遊び」の意味と重要性～	文京区立お茶の水女子大学こども園 園長 宮里 暁美 氏

幼児期の教育と小学校教育の接続

今、活用している指導計画を使って
無理なくできます。

ポイント①：就学前の指導計画に「接続期」と追記

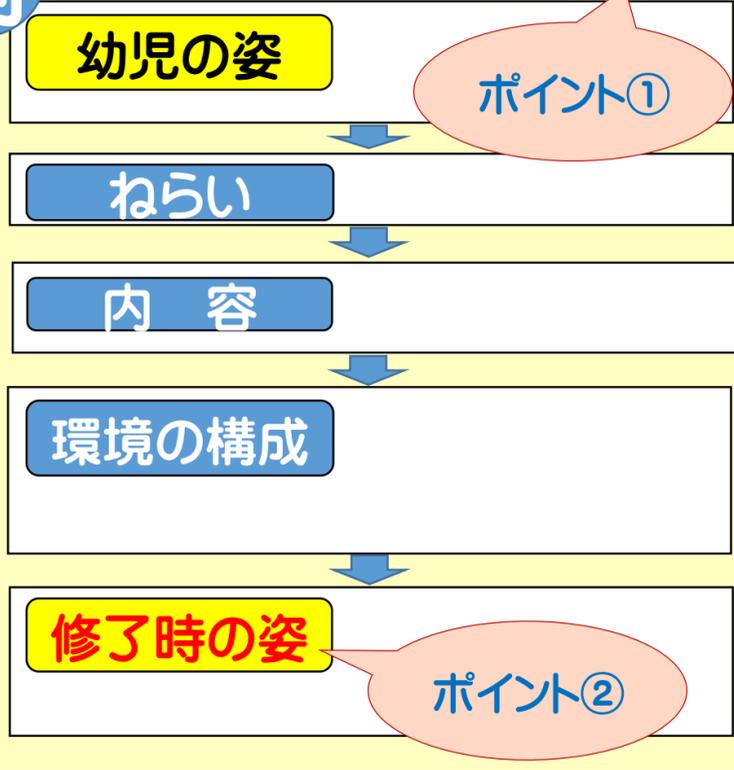
ポイント②：「**修了時の姿**」を明示

ポイント③：「**修了時の姿**」を指導要録と一緒に
小学校へ送付

ポイント④：各期が終了することに全職員で見直し

※下図のように「幼児の姿」は各期の教育後の姿であり、次の期の教育構想の基になるものです。そして、「**修了時の姿**」は最後の期の教育後の「幼児の姿」です。

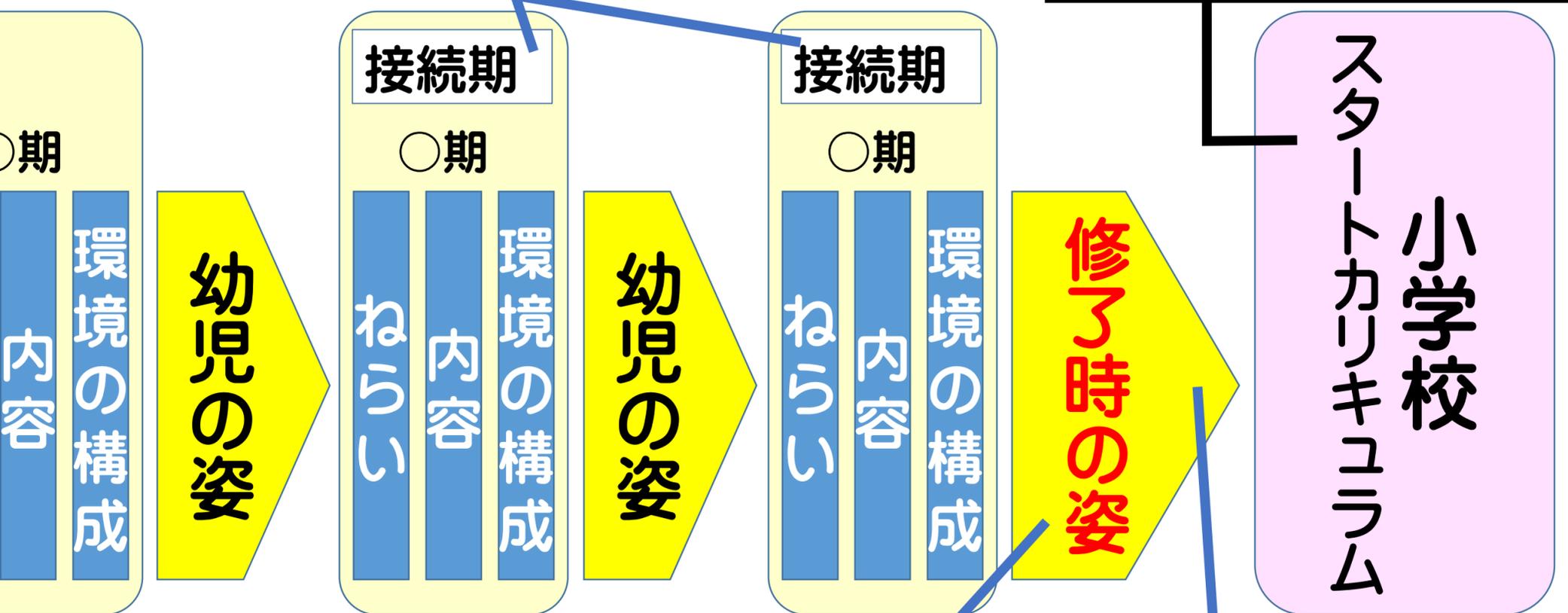
例 12期(5歳児1月～3月)接続期



ポイント①

就学が近くなる時期（5歳児の10月頃～）の指導計画に「接続期」と追記する

小学校での「**修了時の姿**」の活用例は、次ページを参照



ポイント②

最後の期が終わったときの「幼児の姿」を「**修了時の姿**」として指導計画に明示する

ポイント③

「**修了時の姿**」を園児が進学する小学校へ指導要録と一緒に送付する

※上記の「幼児の姿」とは、各園の環境に関わる具体的な幼児の姿から捉えたものです。ただし、週案・日案等におけるものとは違い、過去の実践の蓄積から各園で捉えた発達の様相と言えるものです。

毎年、「修了時の姿」を作成するのは大変です。

「修了時の姿」は、指導計画上の「幼児の姿」と同様に、過去の実践の蓄積から各園所で捉えた発達の様相と言えるものです。毎年、新たに作成するものではなく、全職員で毎年見直しをすることで充実を図ります。各期における「幼児の姿」と同じ扱いであると認識しましょう。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「修了時の姿」の違いは何ですか？

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは、5領域のねらい及び内容に基づいて、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼児期の教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿です。「修了時の姿」とは、過去の実践の蓄積から各園所が捉えた発達の様相と言える姿（**各園所の環境に関わり、その教育によって育つ**であろう全体的な姿）です。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を幼児の内面に育っている力、育ちつつある力を見取る視点（窓口）としてを活用すると、「修了時の姿」を多面的多角的に考察することが可能になるでしょう。例えば、「自立心」が育っていると見取った姿の中にも、視点を変えれば、「思考力の芽生え」や「言葉による伝え合い」「協同性」などの育ちも見取ることができたり、それらが相互に関係し合っていることも理解できたりするのではないのでしょうか。詳しくは、「ぐんま幼児教育センターだより36号」を御覧ください。

指導要録と一緒になぜ「修了時の姿」も小学校に送付するのですか？

指導要録は、「その幼児の特徴的な姿や育ちつつあるもの、また幼児なりに成長した姿がどのような環境や教師等の関わりによって現れたのかを具体的に記述」¹⁾したものです。「修了時の姿」は、各園所の環境に関わり、その教育によって育つであろう全体的な姿です。「一人一人の幼児の発達、集団のもつ様々な教育機能によって促される」²⁾とされています。すなわち、一人一人を理解するためには、どのような集団の中で生活してきたのかを理解する必要があるため、指導要録と各園所の「修了時の姿」の両方があることは大きな意味があります。

小学校は、「修了時の姿」をどのように活用していけばよいのですか？

小学校入学当初、新しい環境の中で子供たちは、一見「修了時の姿」とは異なる姿を見せることが大いに予想されます。当然その姿は、幼児期の教育で育まれた資質・能力を発揮しているものではありません。そこで小学校では、「修了時の姿」にあるような姿が小学校教育の中で発揮されるような環境や教師の関わりを考える一つの指標として、「修了時の姿」を活用できます。

幼稚園教育要領等には、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を踏まえ教育課程を編成すること」とありますが、どのように考えたらよいかよく分かりません。参考になる資料等を教えてください。

文部科学省主催の令和元年度幼稚園教育理解推進事業「中央協議会」第3分科会「小学校教育との接続」において、講師の松蔭大学教授 山下文一氏は、「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』とは、教育課程の編成、指導計画の作成、幼児理解に基づいた評価の実施に当たって、『踏まえて』『念頭に置いて』『考慮する』ものであり、**直接的に反映するものではない**」と述べています。詳しくは、「ぐんま幼児教育センターだより36号」を御覧ください。

※本ページは、「令和元年度 夕やけ保育研修会」に係る研究協力校園の実践及び研修内での協議、アンケートから得た知見を基にしています。

1) : 文部科学省 (2019) 幼児理解に基づいた評価 平成31年3月, チャイルド本社: 東京, p81

2) : 同上書, p24

令和2年度に「幼児期の教育と小学校教育の接続」に関するリーフレットを作成します。お楽しみに！



令和元年度 特別研修員研修

特別研修員による幼児期の教育に関する研究の概要を掲載します。

小規模園での保育を通して、多様な友達と一緒に遊ぶ快さを感じる幼児を育む
— 「全体活動」と「思い思いの遊び」との相互作用に着目して—

特別研修員 幼児教育 大野 淑子（幼稚園教諭）

【幼児の実態】（2年保育4歳児）

小規模園のため、一学級の人数が少ない。その中でも、限定的・固定的な関係が継続的に見られる。多様な同年代の幼児同士で遊ぶ経験が不足している。

【教師の願い】

5歳児を含めた幼児と関わる中で、自分の思いや考えを出したり、友達の思いや考えを聞いたりして、友達との関わりを広げたり、深めたりしてほしい。

運動会で行ったダンスや競技ができる状況づくりをする



頑張っ！

「運動会」という共通体験を経て、自分たちで集団での遊びを始めたり、友達を遊びに誘ったりすることにつながった。

5歳児と一緒に、給食を食べる機会を設ける



「一緒に座る友達は誰かな？」と楽しみにしながら、席を決め、多様な友達と会話を楽しんで食べることにつながった。

学級全体でボールを使った遊びを共通体験する時間を設ける



ぼくが考えたんだよ！

遊びの提案だけでなく、幼児の考えた工夫を全体に紹介すると、その後、「思い思いの遊び」の中で、自分で試したり、友達と声を合わせて遊んだりする姿につながった。

幼児が共通体験する意図的・計画的な「全体活動」

手立て1

相互作用

手立て2

「思い思いの遊び」の中で捉えた「ねらい」に向かう経験に関する要素を全体で共有

幼児の主体的な遊びを教師が学級全体で楽しめるような視点で見取り、「全体活動」へつなげる

先生、宝はどこだ？



二人の幼児は遊び用具を宝に見立て、教師に見付けてもらうことを楽しんだ。教師はこの遊びを学級全体で楽しめる遊びとして捉え、「全体活動」として行った。その後は、「思い思いの遊び」の中で、複数の幼児が誘い合って遊び始める姿につながった。

幼児が友達を思う言葉を掛けたときに、教師が言葉を掛けられた幼児の気持ちを代弁する



〇〇ちゃん、手をつないでもらって、うれしいね。



友達からの言葉を受けた幼児に対して、「助かるね」「よかったね」などと伝え、間接的に言葉掛けした幼児を認めた。また、学級全体でこのような場面を振り返り、全体で共有した。

成果

今まで関わりの少なかった友達と遊ぶことが増えたり、誘い合って集団での遊びを展開しようとしたりする姿が多く見られるようになった。また、けんかや友達同士での意見の食い違いがあっても、教師の援助を受けつつ、幼児同士で話し合ったり折り合いを付けたりして、再び一緒に遊び出す姿が見られるようになった。さらに、友達を思いやる言葉や行動も増えてきた。このような姿は、幼児が友達と一緒に遊ぶ快さを感じてきている姿と捉えられる。

課題

小規模園において集団での遊びを楽しむためには、園全体での取組が必要になってくる。しかし、4歳児、5歳児それぞれの発達の段階や経験させたいことを考慮することが重要であることに実践を通して気付いた。今後は、更に教職員の連携を密にすることが必要である。